

# 令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立味間小学校

校長 浅田 智広

## 1 学校教育目標等

すべての子どもが楽しく通える学校づくり

## 2 今年度の重点目標

- 1 安全で安心して学べる教育環境（学校・学年・学級）づくりに取り組む。
- 2 夢や目標をもち、自立して未来に挑戦する児童の「生きる力」を育む。
- 3 確かな学力の育成をめざし、自ら学び自ら考える授業を創造する。
- 4 児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る。
- 5 学校・家庭・地域の連携を深め、「地域とともにある学校づくり」を探求する。
- 6 全教職員の協働体制整備と資質能力の向上に努め、特別支援教育の充実を図る。
- 7 自分の健康や体力に興味をもち、体育やスポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせ、体力・運動能力の向上を図る。
- 8 働きやすい職場環境づくり、教職員の資質能力の向上及び教職員組織の活性化を図る。

## 3 学校自己評価結果

（達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、子ども主体の学びを推進	B	I C Tの活用や「学び合い」等を取り入れた主体的な授業が着実に増加した。今後は更に効果的な授業の在り方について校内研究を深め、一層の充実を図る。
	カリキュラムマネジメントの推進	B	学校教育目標や学習指導要領の理念を踏まえ、マラソンフェスティバル等の教育活動を工夫改善した。今後は運用面の円滑化と保護者への丁寧な説明に努める。
生徒指導	発達支持的生徒指導の推進	C	児童主体の取組が進み「児童が自ら考え行動する」主体性も着実に育ってきている。今後は教職員の共通理解を一層図り、発達支持的な生徒指導の充実につなげていく。
	問題行動に対して早期に組織的な対応に努め、トラブルを学びに変える指導を行う。	A	トラブルの早期発見・早期対応に努め、解決だけでなく学びに変える視点で指導できた。専門的対応が必要な案件はケース会議を実施し、S S Wと連携して組織的に取り組み成果をあげた。
特別支援教育	互いの違いを認め、生かし合う環境づくり	B	児童の実態に応じた柔軟な支援を行い、教職員の意識にも前向きな変化が見られた。児童の間に互いの違いを認め合い、生かし合う雰囲気づくりが着実に進んでいる。

教職員の育成（働きがいのある職場づくり）	校内研修の充実	A	校内研修では主体的に研究できる体制を整え、「テーマトーク会」や「チーム研修」が効果的に機能した。自由参加の研修会も実施し、教員が自ら学び合い高め合う風土が着実に根付いてきている。
保護者・地域との連携	学校運営協議会・PTAとの連携並びにふるさと教育の推進	B	学校運営協議会で子ども・保護者・地域・教員の意見を丁寧に集約し、学校運営への具体的な提言をいただいた。PTAや地域行事と連携して多様な講師から学ぶ機会を充実させ、地域での活動も着実に増えている。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・安全で安心して学べる環境になっている。児童は、のびのびと勉学に励んでいる様子である。
- ・達成目標がすべてAではなくCもあるので、今後に向けた努力目標ができています。
- ・教職員がいきいきとされているのが授業や普段の様子からも感じられる。
- ・新しいことに挑戦しようとしている学校の方針は少しずつ保護者にも伝わっていると思う。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・「すべての子どもが楽しく通える学校づくり」は、大変な目標ですが、一人でも多くの子どもが楽しく通える学校にしていきたいです。
- ・「子どもも大人も行きたいと思う学校」という目標はいいと思う。部活動で学外指導員に依頼されるとスポーツに興味を持つ生徒が少なくなりそうで心配である。
- ・これからの時代に必要な能力を学校で身につけてほしい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がすすんで発表できる授業が増えている。</li> <li>・学び合いやタブレット等を使った新しい学習形態が進んでいる。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体性を発揮できるような指導が行われている。特にマナーや思いやりを意識できる児童を増やしてほしい</li> <li>・大人も新しいことに挑戦し、その姿を子どもに見せることが大切。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときに相談できる体制を作り、教職員と保護者が密にコミュニケーションをとれる体制を続けてほしい。</li> </ul>
教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が変化しながら前に進もうとしている様子が、教職員の言動からも感じることができた。</li> <li>・校内研修で教職員同士が学び合う方法は効果的である。</li> </ul>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、家庭、地域との連携をさらに深めてほしい。</li> <li>・核家族が進むこの地域で1年生と三世代交流ができたことは、意義あることである</li> <li>・保護者が学校に任せっぱなしにならないように学校とPTAが連携して子どもが成長する土壌づくりを検討してほしい。</li> <li>・PTAの在り方についても地域差がある。味間小でも検討していく必要がある。</li> </ul>